准教授　**野村 悠里**　NOMURA, Yuri

1. 略歴

2000 年 3 月　慶應義塾大学法学部法律学科卒業
2000 年 4 月　慶應義塾大学大学院法学研究科公法学専修修士課程入学
2002 年 3 月　慶應義塾大学大学院法学研究科公法学専修修士課程修了、修士（法学）
2006 年 4 月　東京大学大学院人文社会系研究科文化資源学研究専攻文書学専門分野修士課程入学
2008 年 3 月　東京大学大学院人文社会系研究科文化資源学研究専攻文書学専門分野修士課程修了、修士（文学）
2008 年 4 月　東京大学大学院人文社会系研究科文化資源学研究専攻文書学専門分野博士課程入学
2012 年 3 月　ポーラ美術振興財団若手芸術家在外研修員
2013 年 9 月　文化庁新進芸術家在外研修員
2014 年 3 月　東京大学大学院人文社会系研究科文化資源学研究専攻文書学専門分野博士課程単位取得満期退学
2014 年 4 月　東京大学大学院人文社会系研究科博士課程学位取得、博士（文学）
2015 年 4 月　東京大学大学院人文社会系研究科文化資源学研究専攻助教
2019 年 4 月　日本学術振興会海外特別研究員、ロンドン大学客員研究員
2020 年 4 月　東京大学大学院人文社会系研究科文化資源学研究専攻准教授

2. 主な研究活動

a 専門分野

文化資源学

b 研究課題

ヨーロッパ製本史、装幀史、書物史

ヨーロッパでは伝統工芸として、山羊革や仔牛革で装幀することが行われている。フランスでは二十世紀に至るまで、書物は仮綴本で販売され、読者は購入した本を製本工房に依頼して革装本に綴じ直し、箔押しで装飾するという読書文化が根づいてきた。フランスの製本工芸は高度な装飾技術が発達したことで知られ、製本史では王侯貴族の金箔紋章本を時系列的に分析する研究が行われてきた。ドゥヴォシェル『フランスの製本』(1959-61)、ドゥヴォー『製本の十世紀』(1977) によって製本の通史的分析が行われ、表紙のデザインに関してはエスメリアン『十七世紀における製本工房の装幀』(1972)、ミション『十八世紀のモザイク製本』(1956) により装幀様式の分類が試みられてきた。しかしながら、表紙デザインや金箔紋章による所蔵者の特定が重視され、製本の技術については十分に分析されてこなかった。装飾的に優れた装幀が研究対象とされ、意匠の分析は表紙の全体的印象や主観的見解に依拠してきたという問題点がある。これらの先行研究を踏まえ、より広範な読者層の装幀を研究対象とし、製本工房における技術の継承や製本職人の製作工程を解明する研究課題に取り組んでいる。また、書物を次世代に継承していくための保存修復の問題についても考察を行っている。

c 概要と自己評価

これまでの研究として、製本職人の記録や技術書等の文化資源学的資料を考察し、主として十七世紀から十九世紀におけるフランスの工芸製本史に取り組んできた。以下四点が研究経過である。第一に、製本工房の継承に関する分析である。王室製本師の一族や製本職人組合監督官の家系図を作成し、世代間における工房の継承について考察した。同業者組合が解体された後、製本職人の多くはイギリスに亡命したが、十九世紀以降に活躍した製本職人についても分析を行っている。第二に、製本技術書の考察である。十八世紀以前に出版された技芸書や百科全書を検証し、十九世紀以降の製本職人による手引き書との相違を明らかにした。また、イギリス、ドイツ、オランダ等のヨーロッパ諸国で出版された製本技術書との比較を進めている。第三は、製本の技術的解明である。王令によって認められた「ヴレ・ネール」、非合法の「フォー・ネール」、目引きをした「ア・ラ・グレック」という技法について分析を行った。また、どのように量産に適した製本技法が開発されていったのか、産業革命に至る各国の技術的変容の解明に取り組んでいる。第四は、装幀のデザインの変遷である。手工業製本においてどのように箔押し技術が発展してきたか、型の組み合わせによる模様のパターンを検証している。

d 主要業績

(1) 博士論文

野村悠里『17、18 世紀フランスにおける製本術研究』、東京大学大学院人文社会系研究科、2014 年 4 月

(2) 単著

野村悠里『書物と製本術—ルリユール／綴じの文化史』、みすず書房、2017 年

(3) 学術論文

野村悠里「18 世紀パリにおけるパドゥルー家の製本業の継承過程—製本職人アントワーヌ=ミシェル・パドゥルーの遺産目録を中心に—」、『文化資源学』、第 7 号、57-69 頁、2009 年 3 月

野村悠里「18 世紀パリにおける製本業と道具—製本徒弟 Petit Collant の詩を読み解く—」、『道具学論集』、第 15 号、10-20 頁、2010 年 3 月

野村悠里「近世フランスにおける箔押し技術—模様づくりのパターン分析—」、『技術史教育学会誌』、第 13 巻 2 号、17-22 頁、2012 年 3 月

野村悠里「北ホラント公文書館所蔵の製本手引書に関する考察：画家デ・ブライの描いた『ビブリア／製本の手引き』について」『文化資源学』、第 10 号、61-77 頁、2012 年 3 月

野村悠里「マイケル・ファラデー製本徒弟の時代—「講義ノート」にみる出発点—」、『技術史教育学会誌』、第 14 巻 1 号、49-51 頁、2012 年 9 月

野村悠里「啓蒙主義時代の製本技術書に関する考察」、『技術史教育学会誌』、第 15 巻 2 号、18-23 頁、2014 年 3 月

野村悠里「ルネサンス期のルリユール—ド・トゥ(Jacques-Auguste de Thou, 1553-1617)の紋章本」、『日仏図書館情報研究』、第 40 号(2015)、71-81 頁、2016 年 3 月

野村悠里「十九世紀初頭のルリユール：王立聾学校製本教授マチュラン=マリー・レネによる「保存 製本」」『日仏図書館情報研究』、第 42 号（2016）、15-20 頁、2017 年 3 月

野村悠里「オクターヴ・ユザンヌの装幀芸術考」、『仏語仏文学研究』、第 52 号、225-242 頁、2020 年 3 月

(4) 学会報告・招待講演

野村悠里「王立科学アカデミーによる製本技術書の編纂—R. M. Dudin『製本職人・箔押職人の技術』をめぐって」、文化資源学会研究発表大会 2008、国立西洋美術館（東京）、2008 年 7 月

野村悠里「18 世紀パリのルリユール工房—製本と箔押し道具」、道具学会研究発表フォーラム、東京おもちゃ博物館（東京）、2009 年 1 月

野村悠里「西欧における製本技術の史的考察—近世写本と技術書の系譜」、日本技術史教育学会 2009 年全国大会、久留米市中央図書館（福岡）、2009 年 11 月

野村悠里「近世フランスにおける箔押し技術—活字と紋様」、日本技術史教育学会 2010 年総会、上智大学（東京）2010 年 6 月

野村悠里「文化的記憶を伝える綴じ—大英図書館所蔵『袖珍辞書（Pocket Dictionary）』の装幀に関する分析」、文化資源学会第 23 回研究会、東京大学、2013 年 3 月

野村悠里「パリ国立聾学校に残された製本（ルリユール）手引きについて」、日本技術史教育学会 2014 年度総会、キャンパス・イノベーションセンター（東京）、2014 年 6 月

野村悠里「明治期に建てられた東京帝国大学旧図書館製本所—栄螺山製本所と赤門脇製本所」、日本技術史教育学会 2016 年度総会、東京大学、2016 年 6 月

野村悠里、「ルリユール・綴じの文化史」、日本出版学会、専修大学（東京）、2018 年 1 月

(5) 受賞

日本技術史教育学会講演論文賞

デザイナーブックバインダーズ、オックスフォード大学学生賞

日本出版学会賞奨励賞

日仏図書館情報学会賞奨励賞